

平成26年11月4日

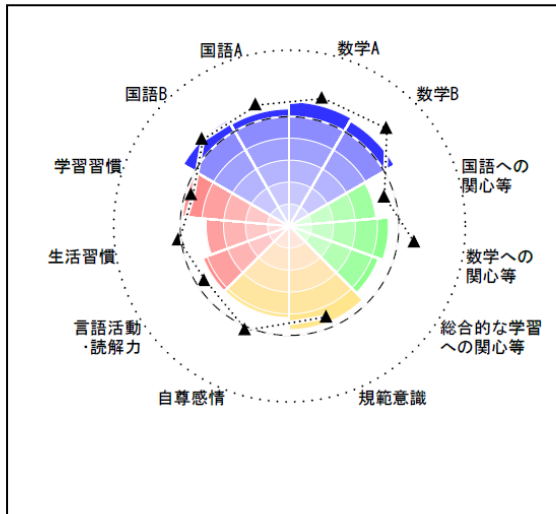
吉川中学校保護者様

豊能町立吉川中学校
学校長 下林 晃

平成26年度「全国学力学習状況調査」の結果について

晩秋の候、皆様には、本校教育活動にご理解・支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、4月22日（火）に実施しました全国学力学習状況調査の結果を学校全体で分析



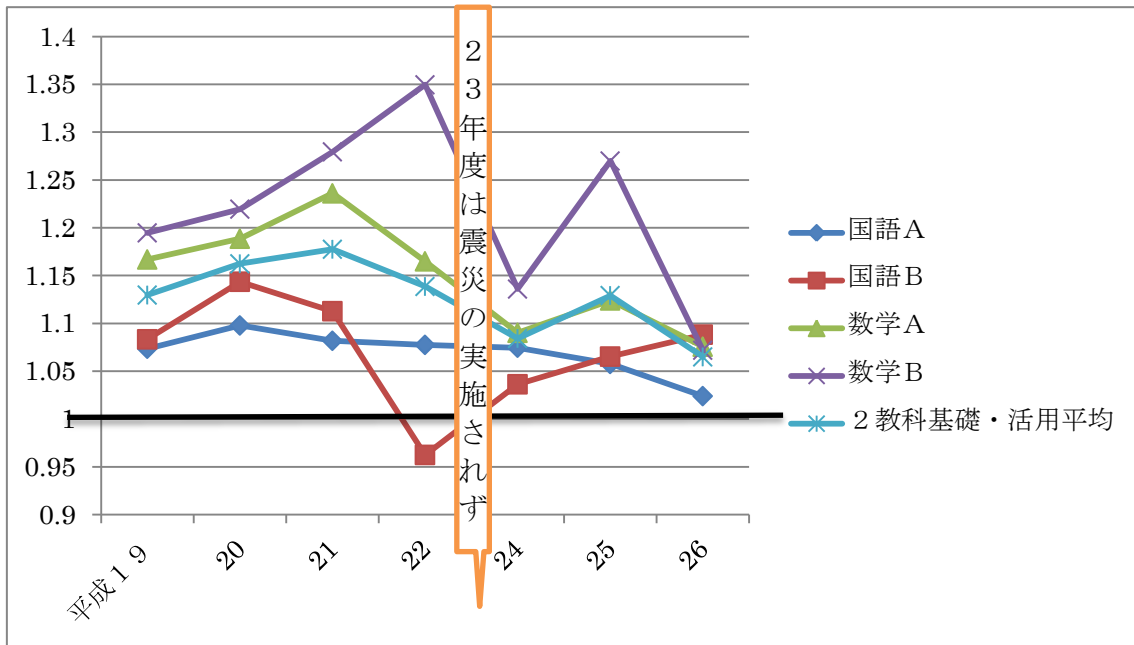
しました。

本年度は、国語、数学ともA問題（基礎基本）、B問題（探究活用）とも全国より良好な結果でした。一方各教科への関心等、規範意識、言語活動・読解力、学習習慣に課題があります。学力面は、全国に比べて概ね良好な結果でしたが、全体の流れとして下降傾向になっているのが伺えます。

学力、学習状況等を詳細に分析すると次のようになりました。

円形破線：全国平均。▲点破線：本校の昨年度結果

1 学力調査結果の概要（経年比較結果、全国平均を1とする）



(1) 国語

〈正答率が全国と比較してやや上回っている問題〉

A：主として知識

- ・ 叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える。
- ・ 文脈の中における語句の意味を理解する。
- ・ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- ・ 古文にあてはまる言葉を昔話の中から抜き出す。
- ・ 文脈に即して漢字を正しく書く。(計画を行動にウツす。)(地域の人をショウタイする。)
- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。

B：主として活用

- ・ 表現の技法について理解する。
- ・ 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。
- ・ 本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る。

(正答率が全国と比較してやや下回っている問題)

A・文脈に即して漢字を正しく読む。(アユの稚魚を放流する。)

- ・ 文脈に即して漢字を正しく書く。(円のハンケイを求める。)

<考察>

評価の観点を見ると、「読む能力」が「書く能力」より優れている。問題形式では、Bの「記述式」が特に優れており、全国と比べてもかなり上回っている。正答率が一番低かったのは、最も国語の基礎となる漢字の読み、書きであり、日頃の授業や実力テストで感じていた「漢字に弱い」という印象を裏付ける結果となった。それらの漢字は、不正解ではなく、無回答であるということから、「言葉を知らない」「言葉に弱い」ということもうかがえる。

国語の授業に関する質問では、400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことができる」という生徒が多く、全国平均である。本校の生徒は大阪府や全国に比べ、「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と考えていないという結果から、目的をもった上での学習がいかに大切であるかである。

改善策として、授業の初めに、漢字の小テストを実施し、基礎基本の定着を図ることや、自分の考えを書いたり、人前でスピーチをしたり、聞いたりする機会を増やし、自ら考える姿勢の育成に取り組む。

(2) 数学

<正答率が全国と比較して10%以上上回っている問題>

- ・ 指数を含む正の数と負の数の計算ができる。
- ・ 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。
- ・ 記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる。
- ・ 三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している。
- ・ 比例の関係を式に表すことができる。
- ・ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解している。
- ・ 度数分布表から相対度数を求めることができる。

<正答率が全国と比較して下回っている問題>

- ・ 分数の除法の計算ができる。
- ・ 数量の大小関係を不等式に表すことができる。
- ・ 対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる。
- ・ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる。

<考察>

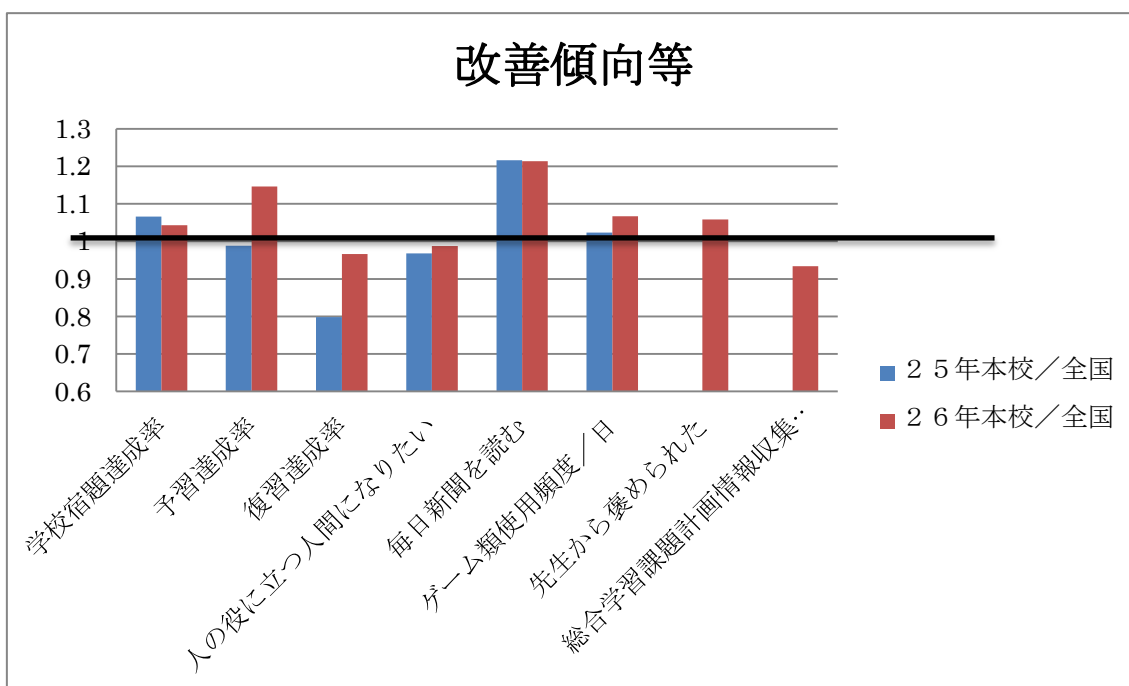
上記は、数学A(主として知識)、数学B(主として活用)について整理したものである。ほとんどの項目について、正答率は全国の平均を上回っているものの、15%以上上回るものはない。逆に下回るものは、5%未満で、あまり全国平均と変わらない。学習指導要領の領域別で見ると、数学A、数学Bの「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」全てにおいて正答率は全国平均を上回っているが、その差は小さい。

数量の大小関係を不等式に表すことや、線対称の図形を完成する(対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる)ことや、確率を用いて説明する(不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる)ことが特に課題である。

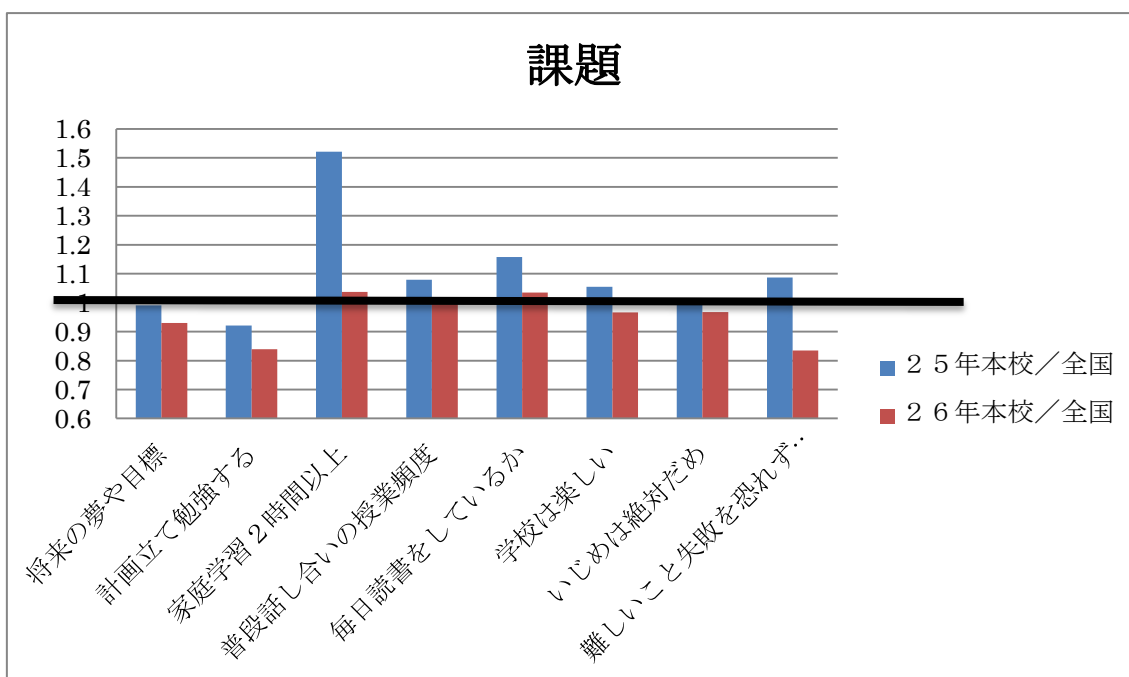
きちんと問題を読み、何が書かれているのかをきちんと考えること、それを分かるように説明することを普段の学習で意識したい。また簡単な問題であっても、なぜそうなるのかということ进行深入に考える習慣をつける取り組みが不可欠である。

2 学習状況調査の概要

○本校の生徒改善傾向（全国平均を1とする）



○本校の課題（全校平均を1とする）



<生活習慣>

起床や就寝時刻の基本的な規則正しい生活習慣は全国平均よりもほぼ10%低いという

新たな課題が出てきた。PTAと連携して取り組むPC等のゲーム利用率は良好、携帯・スマホでの通話・メール等利用率は、全国平均であるが、共に4時間以上やっている生徒がそれぞれ約10%、20%いる。国の分析より、スマホや携帯の短時間利用者の方は正解率が高く、特に中3の数学では、30分未満と4時間以上では、20点近い差がある。右記の表からも、スマホを持てば、使用時間が3倍に急増している。

	平日2時間以上／日、携帯・スマホでインターネットの利用者	平日携帯電話・スマホによるインターネットの平均時間
スマホ利用者	51.1%	132.6分
従来型携帯利用者	12.2%	43.4分

(内閣府25年青少年のインターネット利用調査)

<学習習慣>

毎日の平均学習時間は、ほぼ35%強の生徒が2時間以上であり、全国平均である。休日は約30%の生徒が3時間以上で、全国よりも約10%高い。宿題達成率や、予習達成率は全国より向上したが、復習達成率は課題である。通塾率は、約75%で全国よりもほぼ15%高い。気になるのは、家庭学習の内容であり、自分で計画を立てて学習している割合が、全国よりもかなり低い。点数のみの向上に重きを置き、勉強方法が身に着いていない傾向にある。

<地域とのつながり>

生徒の成長にとって大切な一つが、自然や地域の人との関わりや、地域の様々な行事に参加することであり、全国よりも高い。地域や社会問題、出来ごとの興味関心は、全国よりも10%低いのが気になる。

<学校生活>

生徒にとって一日過ごすのは学校である。「学校が楽しい」、「学級ではみんなで協力して何かをやり遂げて嬉しい」は、全国よりも低い。「悩みを相談する相手が、先生・友だち」と応えた生徒は全国よりも高い。気になるのは、全国とほぼ同じであるが約4分の1の生徒がだれにも相談しないと答えていること。「先生がよいところを認めてくれるか」は、ほぼ80%で全国よりも高い。全国的な傾向として、学校に配置されているスクールカウンセラーへの相談回答が極小である。そこで今年度当初に初めて全校集会の場で、スクールカウンセラーの自己紹介と職務内容の説明を行い、心の通信便りを発行している。週1回の配置にも課題がある。悩みが発生した時に瞬時に対応できる配置体制と、家庭・地域・学校での人間関係作りが必要である。

3 課題克服に向けて

全国的な分析結果より、読み取れるのは、学ぶ動機づけや、社会に関心をもつこと、家庭内で、ニュースをよく見ている子、学校行事に対する関心が高い家庭の子は、学力が高い傾向である。机で勉強することも大切であるが、社会の仕組みや、事象等に関心を持つことも大切であることが伺える。学校の学習においては、総合的な学習にきちんと取り組む

んでいる子や学校は学力の成績も良い。総合的な学習は、教科横断型の授業であり、本校でも以前から年間計画に基づき積極的に取り組んでいる。例えば、1年では、職場訪問、2年では職場体験、3年では保育体験、等々。教科横断型であるので、単なる体験に終わらず、まとめを行い、発表会も実施している。このような活動が、学ぶ動機づけや、社会に関心持つことにつながっているかを分析し、必要があれば改善することが必要である。

<学校の取り組み>

①読解力・言語力の克服策

- ・朝の読書（毎日実施）と校内読書感想文（夏季休業中の宿題）の継続。
- ・各教科で新聞記事の活用を行う。

②授業の工夫改善策

- ・言語活動等を意識した研究授業（26年度実施予定教科数学、英語、社会科、家庭科、道徳等）。
- ・少人数・習熟度別等加配教科（数学、英語）の授業の工夫改善。
- ・道徳授業作りの研究（8月28日研修会実施済み）と授業公開（11月4日～8日）。

③学習意欲策：テストに向けての学習計画作りや放課後学習会の実施と、各教科等の家庭学習の習得支援。

<地域・家庭の取り組み>

①社会の素晴らしさや仕組み、ルールを学ぶ原点は、地域・家庭である。地域・家庭での挨拶・雑談・一声かけを広げる。PTAの見守り活動は定期に実施すると同時に、不審者等の情報があれば直ぐに立ち番等の対応ができるように改善した。

②家庭内での学習環境の整備

- ・新聞、図書が身近にあり共に読書する家読環境づくりの推進。
- ・携帯・PC等はリビングに並べ、部屋には持っていない。携帯等に振り回されない環境作り。
- ・生徒が勉強モードに入れば、テレビ等のスイッチをOFFにする家庭環境作り。
- ・PTA研修会「パソコンやスマホ等のインターネット潜む危機管理対応」（町P）、「思春期のありようとスマホへの傾斜と孤独感」（本校スクールカウンセラー）

<総合的な取り組み>

- ・教科の基礎・基本の知識・技能の習得は繰り返し指導する。
- ・教科の構造化。中核となる概念を丁寧に指導後、現象や知見を整理することができ、つながりを明確にできる力を養う。
- ・しっかり聞くことを基本に能動的な学びの姿勢の育成を図る。
- ・自覚的な学びの育成を図る。生徒が学ぶことについての自覚と、何がわかり、わからないかをとらえることや、相手の発言や文章を吟味し、目的にあっているか、場にふさわしいか等検討できる力を養う。

4 おわりに

昨年度「最初から答えを提示し、親切丁寧に教えてしまえば、生徒自身が自ら感じ、考える機会を奪ってしまいます。テストの結果や効率を追い求めて、大切なことを経験せずに中学校を終えてしまうような気がします。…「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」という諺があります。人間は失敗してはじめて、間違いに気づき何とかしたいと言う芽生えが生まれるのです」と書きました。今年度も更に効率を求める傾向が強くなっているように思われる。与えられた宿題や課題を機械的にこなすだけの受動的な学習でなく、時間はかかるが試行錯誤しながら自分なりの勉強法を身につける能動的な学習が、知識を深めることになる。自分なりの勉強法が身につけば、知識が深まり、有機的に構成され相互につながることができ、夢や目標を追い求め、実現できる学力つながるのです。